

ニホンジカの生態

分布と生息環境

北海道から沖縄まで多雪地を除き，全国に分布している。近年，その分布域は全国的に拡大傾向にある。

餌となる植物が多い場所を好むため，林内以外に，林縁，伐採跡地，造林地なども餌場としている。

繁殖と行動特性

満1歳（生まれた翌秋）で性成熟し，10～11月に交尾して，5～6月に出産する。通常は1産1仔であるが，まれに2仔を出産する。

メスは栄養条件が良ければ，満1歳の秋に発情し，7割以上が妊娠する。2歳以上では8割以上が妊娠する。縄張りを持つオス1頭が複数のメスと交尾する。いわゆる一夫多妻の繁殖形態をとるため，メスを捕獲しないと生息数を減らすことは難しい。

シカはほとんど除助走せずに1.5m以上の障害物を跳び越える能力を持つ。しかし防護柵など障害物では上を跳び越えるよりも，隙間や下をくぐり抜けることが多い。

農作物被害の特徴と痕跡

牛と同じ反芻動物であるシカは，一部の有毒な植物（アセビなど）を除き1,000種を超える植物の葉，芽，樹皮，果実を餌としている。その量は1日約3kgとなる。シカにとっては，農地の農作物だけでなく，集落周辺の雑草の大半が餌となる。特にシカの餌が乏しくなる冬～早春の農地，林道や農道のり面，果樹園などに茂る青草は格好の餌資源である。

それ以外にも，水稻のヒコバエ（2番穂），レンゲやクローバー，ナンテン，サカキなどの植木も餌となる。

農地周辺で見られるシカの痕跡として，足跡（イノシシと異なり，副蹄跡は残りにくい），糞，食痕がある。

また，樹皮はき跡，休み場などが見られる。特にシカの密度が高い地域の森林では，シカの食害によって，高さ2m以下の林床の植物がほとんど消失し，都市公園のような景観を呈している場合がある。



足跡（イノシシと異なり副蹄跡はつかない。
は進行方向）



糞（長径約 2 cm，短径約 1 cmの俵状）



シカによる菜花食害



リョウブに残る樹皮はぎ跡

以上の内容は「野生鳥獣被害防止マニュアル(イノシシ、シカ、サル) - 実践編 - 」(平成19年3月農林水産省生産局発行)から引用したものです。

県内の農作物被害状況

平成19年度野生鳥獣による農作物の被害状況調査の結果，被害金額は1,665.1万円で，初めて被害が報告された平成5年（150万円）と比較すると約11倍にまで増加している。

市町村別では，石巻市，気仙沼市，女川町から被害報告があった。

作物では，稲（785.9万円），飼料作物（478.6万円），野菜（399.5万円）などが被害を受けている。